

# 目白台附属病院分院跡地の土壌汚染調査結果と 汚染土壌の除去について

平成20年12月15日  
東 京 大 学

東京大学では、文京区目白台附属病院分院跡地内の既存建築物解体工事に先立ち、環境確保条例に基づき、土壌汚染状況調査を実施しました。その結果、一部の箇所から汚染土壌処理基準を超える水銀などが検出されましたので、その調査結果と汚染拡散防止対策についてお知らせ致します。

なお、汚染状況調査の結果により大気モニタリング調査及び地下水調査を実施しましたが、いずれも基準値以下であることを確認しており、来年2月からは汚染土壌の除去作業を実施いたします。

## 1. 経 緯

目白台附属病院分院跡地は、明治30年に麹町区永楽町に設立された内務省医術開業試験場（永楽病院）が明治41年に当地に移転、その後大正6年に東京帝国大学に移管されて以来、平成13年4月に本院との統合により閉院するまで大学病院として診療、研究、教育を行っており、このような経緯の中で医薬品等が、何らかの原因で流出して土壌が汚染されたと考えられます。

なお、分院跡地は閉院後、現在まで一部の建物を除き使用されておらず、敷地への立入りも制限しております。

## 2. 土壌汚染調査結果

東京都土壌汚染対策指針に基づき、概況調査で基準値を超過した区画について土壌詳細調査（ボーリング）を実施しました。

結果は、敷地内の21区画の土壌の一部から基準値を超過する水銀（最大溶出量で0.0098 mg/、最大含有量210 mg/kg、アルキル水銀は未検出）、鉛（最大溶出量で0.016 mg/、最大含有量750 mg/kg）、六価クロム（最大溶出量で0.06 mg/）が検出されました。調査場所及び汚染区画は別添図面のとおりです。

含有量調査の結果により、周辺への拡散状況について汚染区画での大気モニタリングを行いました。基準値以下でした。汚染土壌が確認された区画の大部分はコンクリート及びアスファルトに被覆されていますが、一部露出している部分については、飛散を防止するためにビニール被覆による保全措置をとっております。また、地下水調査を行いました。汚染物質は地下水中から検出されませんでした。

## 汚染範囲

総区画数	汚染区画	汚染最深度	備考
226	21 区画	8.2m	区画は 10m × 10m

## 含有量（基準超過区画）

単位mg/kg

有害物質	検出区画	汚染土壌処理基準	基準超えの濃度範囲	基準値に対する倍率
総水銀	11 区画	15	19 ~ 210	1.3 ~ 14
鉛	8 区画	150	200 ~ 750	1.3 ~ 5

## 溶出量（基準超過区画）

単位mg/

有害物質	検出区画	汚染土壌処理基準	基準超えの濃度範囲	基準値に対する倍率
総水銀	13 区画	0.0005	0.0006 ~ 0.0098	1.2 ~ 19.6
鉛	1 区画	0.01	0.016	1.6
六価クロム	1 区画	0.05	0.06	1.2

### 3. 汚染土壌の除去

基準値を超えた汚染土壌は、全て掘削除去し土壌処理施設へ搬出することとしています。また、掘削箇所は良質土にて埋め戻し致します。対策工事期間は平成 21 年 2 月 ~ 12 月までを予定しており、工事に際しては十分な安全対策をとり、粉じんが周辺に飛散して汚染を拡大することのないように致します。

なお、環境確保条例に基づき「汚染拡散防止計画書」を作成し、本日、東京都に提出し受理されております。

### 4. その他

今後の土地利用としては、外国人研究者や留学生の居住環境を改善するために、インターナショナル・ゲストハウスや社会科学と人文学を中心とする高等研究所（仮称）の建設を計画しております。

本件に対する問い合わせ

東京都文京区本郷 7 - 3 - 1

東京大学本部プロパティマネジメントグループ

TEL : 03 - 5841 - 2211

グループ長 藤本恵夫